

# ともに生きる ともに創る 共生共創通信

VOL.17

とことん  
個性、  
舞台、  
ぞくぞく。  
ともに生きる ともに創る  
共生共創事業

撮影：加藤甫



藤沢市  
特集号

## 音楽を通して 一人ひとりが 輝く場を創る

「ワン、ツー、スリ、フォー!」。合図とともに始まったバンド演奏。ピアノやギター、ベース、ドラムなどが奏でる音に歌声が加わり、大きなうねりとなったハーモニーが店内に響きます。生き生きと歌うパフォーマーの姿に魅了され、いつの間にか店内のお客さんも身体を揺らし、音楽に合わせて手を振りながら楽しんでいました。

ここは藤沢市にある障がい者の就労支援施設「Live Cafe Music of Mind」。NPO法人Music of Mindが運営する、食事やお茶とともに音楽ライブが楽しめるカフェです。ドアを開けると光が差し込むカフェスペースがあり、カウンター向こうのキッチンでは、丁寧にコーヒーをドリップしている様子が垣間見えます。店内奥のエリアには、オリジナル楽曲のCDや、動物の形をしたアクリルたわし、コースターなどの手作りの品が並んでいました。

「近所のおじいちゃんが毎日のようにコーヒーを飲みに来て、夕方までくつろいでいるんですよ」と話すのは、代表の錦谷陽子さん。この居心地の良い空間で、利用者の皆さんは、就労支援施設として「はちよつとめずらしい」音楽を仕事にしています。



撮影：加藤甫

### レポート チャレンジ・オブ・ザ・シルバー 小田原公演『Largo-新しいトーン』

幕が上がると、舞台の上にははずりりと並んだ椅子が。オープニングアクト「Thunder Drum」ではダンサーたちが、座ったり立ったり、腕や足を組んだり、とシンプルな動きの連なりで魅せます。続く「2024/1/27」はシニア一人ひとりが考えた、オリジナルの振付を中心に構成された作品。スローな動きに日付を読み上げる朗読の声が重なり、人生経験を重ねてきたシニアだからこそできる表現に、客席からはすすり泣きの声も。5歳から83歳までのメンバーと一緒に踊る「月とうさぎ」では、子どもたちの登場とそれを見守るように踊るシニアの姿に温かい拍手が送られ、オフィスレディをテーマにしたユニークな振付の作品「Move」では、若手ダンサーと共に躍動するシニアの姿に会場全体が惹き込まれました。

プロジェクトリーダー・安藤洋子さんのダンスとギターの生演奏が響き合う「Echo」から、最後は出演者全員が交差し織りなす作品「Largo」へ。74名の出演者が集った公演は、世代を超えたつながりと表現の可能性を感じる時間となりました。



### レポート 小田原シニア劇団 チリアクオールディーズ 『常盤木の風』

舞台は公演を間近に控えた、とあるシニア劇団の稽古場。看板女優が言い放った「役を降ります」という言葉が波紋を広げ、メンバーが悩んだり、話し合いを行ったり、勇気を出して進言したり、とそれぞれに奮闘する様子が描かれます。シニア劇団をシニア劇団が演じるという設定のため、例えば誰かが立ち上がるたびに「私も付いていきましょうか」と声をあげる人、酔っ払うと発語が曖昧になる人など、演者の人物像を反映しているのだろうかと思いが膨らみました。

2月3日(土)の終演後は、本劇団プロジェクトリーダーの大島寛史さんが、横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」プロジェクトリーダー・横田和弘さんとトークを行いました。シニア劇団を率いているからこそ感じる、台本通りにはいかないけれど、想像の範囲を超えて芝居が成立していく面白さなどを語り合い、観客の皆さんも終わったばかりの公演に思いを馳せながら真剣に耳を傾けていました。

## 2023年度神奈川県 共生共創事業 今後のラインアップ

神奈川県では、年齢や障がいなどにかかわらず、すべての人が舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。

2024年3月 影絵・映像

やまゆり園×劇団かかし座  
『影絵であそぶ～季節のうた～』  
オンライン配信中

2024年3月 音楽・映像

スプラウト×若鍋久美子  
『音の探検隊2023 in スプラウト』  
オンライン配信

2024年3月23日(土)、24日(日) 演劇

横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」  
第7回公演(自主公演)『EMクラブ』  
ヨコスカ・ベイサイド・ポケット

お問合せ

公益財団法人神奈川県芸術文化財団 社会連携ポータル課 〒231-0023 横浜市中区山下町3-1 神奈川県民ホール内  
電話 045-222-0553 (平日 10:00~18:00) ファックス 045-663-3714 メール kyoso@kanagawa-af.org

主催 神奈川県 企画製作 公益財団法人神奈川県芸術文化財団 発行 2024年3月 編集・ライター 橋本誠、福井尚子 デザイン 水澤充 (MYG round inc.)



ともに生きる社会  
かながわ憲章  
KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

ME-BYO®

公益財団法人  
神奈川県芸術文化財団



令和5年度 文化庁  
文化芸術創造拠点  
形成事業



https://kyosei-kyoso.jp

# 『音の探検隊2023 in スプラウト』

若鍋久美子さんに活動についてうかがいました。



## Q1 2023年7月から全7回開催されたワークショップ。これまでどのように進めてきましたか？

様々な種類の打楽器に触れ、みんなでやり取りを重ねながら即興のセッションも楽曲も楽しみました。演奏は録音して聴き合い、最終回にはスプラウトらしさがギュッと凝縮したひとつの作品も生まれました。また、楽器を鳴らすだけではなく、ときには風船や布を用いながら、音の振動や質感など聴覚以外でも空間に広がる音を感じて共有し合うということも試みました。

## Q2 スプラウトでは、障がいの種類や程度も人によって異なっていたかと思えます。その中で、どのようなことを大切にしながら取り組まれましたか？

みなさん重度の心身障害があります。音の捉え方も反応の仕方も様々ですし、もちろん好みも異なります。瞬発的に表現が湧き出る方も、じわじわと繊細に返してくれる方も、それぞれの間合いにその人らしさを感じました。場を温め、お互いの間合いを楽しむことを常に意識しました。影響を受け合って過ごした時間そのものが音楽的だったと感じます。

## Q3 楽器を足や腕に付けられるようにするなど、物理的に工夫されているのも印象的でした。

リズムカルに足踏みをする方には、振ると音が鳴る木の実が連なった楽器を、足に付けられるようにしました。彼女のビートから始まったセッションはとても印象に残っています。また手先が動かしづらい方もいたので、手で握って鳴らすマラカスのような楽器は、手首に下げられるようにしました。太鼓のバチもタオルを巻いて太くし

様々な楽器に触れて楽しみました。



ワークショップの様子

て持ちやすくしたり、バンドを付けてみたり。みなさんの様子を観察しながら、スタッフ間で知恵を出し合って、工夫しながら行いました。

## Q4 ワークショップを重ねるなかで、どのような変化がありましたか？

初回はお互いに探り探りだったのですが、回を重ねるごとに参加者の方がどんどん積極的に「やりたい!」という雰囲気になり、舵をとってくれるように。また参加の形は楽器を鳴らすことだけではないと気付かされ、「踊りたい・歌いたい・今はじっと聴いていたい・身体で音を感じていたい」など、各々が自然に音楽の世界に溶け込める空気が生まれていきました。最終回には、これまでワークショップのメインの部屋とは別の小部屋で参加されていた方も、みんなの輪に加わって、楽器を鳴らしてくれて。私たち以上に職員の方が驚いていました。

職員さんとの積み重ねも嬉しかったです。段々と利用者さんに相性の良さそうな楽器の選定や心地良い持ち方をサポートして下さるようになり、一緒に演奏してセッションのムード作りもしていただきました。

## Q5 最後に、ワークショップのドキュメンタリー映像のみどころと、ご覧になる方へのメッセージをお願いします。

私は一緒に奏でながら、その方の人となりやスプラウトの中での関係性が音となって見えた時にとても喜びを感じました。音、表情、そして施設管理者の佐藤さんが映像の中で語ってくださった言葉からもそれは垣間見えます。是非一緒に探検しましょう!

### 『音の探検隊2023 in スプラウト』とは

打楽器奏者・若鍋久美子さんが、平塚市にあるNPO法人スプラウトで打楽器ワークショップを行うプロジェクト。2023年7月より、全7回実施。ワークショップの模様を追ったドキュメンタリーは、神奈川県公式YouTubeチャンネル「かなチャンTV」にて配信中。

錦谷陽子さん(撮影:加藤甫)



コーヒーをドリップするイキくん。撮影はSNS担当ハヤトくんによるもの。

「ふえあーないん」は利用者たちがライブを行う際のユニット名です。結成当時のメンバーが9名だったことが由来で、

写真を撮りに来たのはSNS担当のハヤトくん。取材チームのカメラに興味津々です。「彼は芝居が得意なの。ふえあーないんではナレーションをしています」。

「ふえあーないん」は利用者たちがライブを行う際のユニット名です。結成当時のメンバーが9名だったことが由来で、

写真を撮りに来たのはSNS担当のハヤトくん。取材チームのカメラに興味津々です。「彼は芝居が得意なの。ふえあーないんではナレーションをしています」。

「ふえあーないん」は利用者たちがライブを行う際のユニット名です。結成当時のメンバーが9名だったことが由来で、

写真を撮りに来たのはSNS担当のハヤトくん。取材チームのカメラに興味津々です。「彼は芝居が得意なの。ふえあーないんではナレーションをしています」。

# 共生共創通信

## 音楽を通して 一人ひとりが 輝く場を創る

良いステージを作ろうという思いが  
絆を強くする

Music of Mindは2012年にNPO

法人として設立。音楽を学んでいた錦谷さんをはじめ、音楽やダンスを専門とするスタッフが立ち上げたことから、ステージ

設立当初は、就労支援施設で音楽を仕事にする事例はまだまだ珍しく、周囲から理解が得られにくい状況でした。活動を広く認知してもらうため、2015年に現在の場所へ移転してライブカフェをオープン。以来、こだわりの食材を使った料理や飲み物の提供と雑貨販売、ライブ演奏を行っています。

カフェで提供される彩り鮮やかなガレット。手早く丁寧に生地を焼くのはイキくんです。食後にもお願いしたコーヒーも、イキくんが淹れてくれます。「鎌倉のカフェでハンドドリップを学んだんですよ」と錦谷さん。そんなイキくんはバンドではドラムを担当しています。

現在はMusic of Mindに通う17名全員が参加しています。

趣味ではなく、プロとして活動を行うために、メンバーは日々練習を重ねています。「みんなの意見を聞きながらも、声質や適性を見極めてパートはこちらで割り振っています」と錦谷さん。「センターに立ちたいという思いやソロを歌いたいという思いは、みんなの中にぶつぶつと芽生えているようです」。切磋琢磨しながら行うライブカフェでの発信活動が実を結び、最近では、福祉施設やイベントなどでの出張ライブの仕事も増えてきました。

「ふえあーないん」は利用者たちがライブを行う際のユニット名です。結成当時のメンバーが9名だったことが由来で、

写真を撮りに来たのはSNS担当のハヤトくん。取材チームのカメラに興味津々です。「彼は芝居が得意なの。ふえあーないんではナレーションをしています」。

### 📍 Live Cafe Music of Mind

NPO法人Music of Mindが運営する知的障がい者の支援施設であり、ライブカフェ。手作りの料理や飲み物を楽しみながら、ライブ演奏を楽しむことができます。看板メニューは、福井県より無農薬そば粉を取り寄せて作ったガレットや、卵と小麦粉で手打ちした自家製生パスタなど。鎌倉のカフェでコーヒーの淹れ方を学んだ利用者による、本格的なドリップコーヒーも飲むことができます。

神奈川県藤沢市大庭5251-1

<http://mofm.web.fc2.com/top.html>

